

研究結果報告書

所属 中国・曲阜師範大学

役職 講師

氏名 高 燕文

【研究テーマ】

「満蒙開拓」をめぐる言説空間に関する研究：戦時下の文字・画像・音響資料から

【研究結果】

1、研究背景と研究目的

日本人の「満洲農業移民」について、戦時下も戦後も、様々な「公」と「私」の言説が飛び交っていた。「満洲農業移民」に関する研究成果は枚挙にいとまがない。しかしながら、その研究蓄積の多くは政治史、経済史、社会史の視点からであった。そのため、「満洲農業移民」が当時の文字・画像・音響資料を通して、どのように描かれ、語られていたのか、という文化営為の視点から、「満蒙開拓物」を一つの「自己完結」したテーマとして、その枠組みにおける膨大な文字・画像・音響資料の整理を含めて全体的なアプローチを行う試みは欠けており、「満蒙開拓」をめぐる言説空間の形成という全体像が見えてこないのは現状である。従って、本研究はトータルな視点からさらに掘り下げ、「満蒙開拓物」のありようやその性格を解明することにより、記録・表象空間としての「満蒙開拓」を把握し、戦時下の現地空間としての「満蒙開拓」の再現に大きく寄与しようと思う。

2、主な研究活動

この一年間、主に以下の三方面から資料の蒐集及び研究を展開している。まずは、「大陸開拓文学」に関する研究である。「大陸開拓文学の主な単行本作品・作品集」というリストを作った。次は「満蒙開拓」の関連雑誌・新聞紙群に対する具体的な調査・研究である。『開拓』『偕拓』を中心に、戦時下、雑誌・新聞紙に掲載された「満蒙開拓」に関連する文芸作品（記事）を整理した。第三は、「満蒙開拓」に関連する画像資料・音響資料の蒐集である。主に、絵葉書、ポスター、出版物表紙・挿絵、画報、写真、展覧会・美術会の出品、歌曲、映画、放送などの「満蒙開拓物」を蒐集した。これからの研究において、これらの資料を活用し、「満蒙開拓」をめぐる言説空間に関する研究をさらに展開し続けたい。

3、研究を通じて解明された内容

「満洲農業移民」送出の時間軸に沿って、これをめぐる懐疑・宣伝・動員・誘致などの諸言説が交錯する空間、その生成と拡大の文脈を遡った。さらに、その文脈の中に登場した「満蒙開拓物」の生成される背景、関与している文芸団体・作家、この創作ブームの全体像へのアプローチを展開した。それを辿ることにより、文化営為といった視点から、日本文化人及び一般日本人の「満蒙開拓観」を顧み、「満洲」が日本人の心にどのように位置づけられているか、近代日本の知識人たちは当時の農民・農村にどれほどの関心と認知を持っているか、日本人開拓民の日常生活において現地人との交流・齟齬・摩擦といった問題を考えた。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

①論文発表：

題名：福田清人が作った「満洲移民物語」

発表者名：高燕文

会議名：異文化背景における中日人文交流及び地域研究シンポジウム

日時：2023年8月13日～15日

参加者：中日韓三国の約百人の研究者達出席

場所：延辺大学

②院生学術論壇講演

題名：戦時下、来華した日本人作家達及びその創作活動

発表者名：高燕文

日時：2023年11月1日

場所：曲阜師範大学

参加者：翻訳学院日本語専攻の先生と学生たち、約四十人出席

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

題名：福田清人が作った「満洲移民物語」

作者名：高燕文

論文掲載誌：安勇花主編『中朝韓日文化比較研究叢書 日本言語文化研究 第七輯』
延辺大学、2024年5月（ISBN 979-11-6919-211-8 93730）

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）